

会 議 録

1 名 称	平成25年度第3回北九州市子ども・子育て会議
2 議 題	○ 子ども・子育て支援に関する市民アンケート（ニーズ調査）について
3 開催日時	平成25年8月6日（火）14：00～16：00
4 開催場所	北九州市立男女共同参画センター・ムーブ5階小セミナールーム （小倉北区浅野三丁目8-1）
5 出席した者の 氏名	出席委員（13名） （◎…会長、○…副会長）（敬称略・50音順） 内木場 豊 香月 きょう子 上別府 清隆 北野 久美 ○白澤 早苗 陣内 朋子 添田 重幸 ◎田中 信利 津留 小牧 中間 徹 中村 雄美子 錦戸 千晶 村上 順滋 出席専門委員（7名） 井上 功 木戸 義彦 黒木 八恵子 中田 俊澄 平田 久美子 星子 陽子 柳田 克喜 山本 文雄 渡邊 典子
6 議事の概要	次ページのとおり
7 発言内容	次ページのとおり
8 その他	傍聴者なし
9 問い合わせ先	子ども家庭局 子ども家庭政策課 子ども・子育て新制度準備担当 （担当）村上、立石 電話番号 093-582-2550

会 議 録

6 議事の概要

- ・ 子ども・子育て支援に関する市民アンケートの概要について
資料1、2、3に基づき事務局より説明した。
- ・ 市民アンケート案の内容説明・協議
資料4-1、4-2、4-3、4-4、5-1、5-2、5-3、5-4に基づき事務局より説明し、質疑・意見交換を行った。
- ・ 市民アンケート案の協議の前提として、子ども・子育て支援新制度について理解を深めるため、第4回会議において事務局から説明を受けることとし、その後、第5回会議において、市民アンケート案の協議を継続することを決定した。

7 発言内容

発言者	内 容
	<p>【開会】14:00</p> <p>○ 会議成立の報告</p> <p>【議事】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>(1) 子ども・子育て支援に関する市民アンケート（ニーズ調査）の概要について資料1、2、3に基づき事務局より説明</p> </div>
委員	<p>資料1の1ページで、アンケート実施方法の(1)調査の対象があるが、調査票発送の際の宛名はどのような記載となるのか。①(就学前児童)、②(小学生)、③(中高生)は対象の子どもの名前が宛名になるのか。</p>
事務局	<p>宛名については、年齢区分に応じて住民票から無作為抽出するため、子どもの名前になる。ただし、質問表に記載のとおり、宛名の子どもの名前について、その保護者の方に回答してもらうという方法を取る。</p>
委員	<p>18歳以上40歳未満の男女について、宛名は本人となるのだが、資料5-4の調査票では、お願いの文章の中段に「その保護者の方にご協力をお願いするものです。」となっている。これは当人に協力を願うということになるのではないか。</p>
事務局	<p>指摘のとおり記載の誤りのため、修正したい。</p>
委員	<p>資料5-1の問6「日頃、宛名のお子さんを見てもらえる人はいますか？」という質問ですが、これが同じ設問の資料5-2の問6では、「日頃、宛名のお子さんを見てもらえる親族や知人はいますか」という設問になっているが、異なる表現とする必要があるのか。</p>

会 議 録

事務局	校正の不備のため、適宜修正したい。
会長	<p>対象者別のアンケートになっているが、文言等は統一するよう事務局で対応してほしい。</p> <p>今回のニーズ調査というものは、国の方針により、現在の利用状況プラス今後の希望利用というものを数量的に把握した上で、その数に基づいて施策の計画を立てるためのものである。そのため、アンケート調査の精度が高くなければ、北九州市の地域の人々のニーズというものが洗い出せない。その意味で、中身が洗練されていないといけない。また、今回の調査は、前回より対象者数も増えているが、回収率も高くなると地域の人々のニーズは上がってこない。これから各対象者のアンケートについて検討していくが、基本的な考え方はそのように理解していただきたい。それを踏まえて、質問があればお願いする。</p>
専門委員	対象者の数が（前回調査より）増えているが、今回の調査数の根拠を教えて欲しい。また、前回調査の回収率、さらに、今回かなり内容が盛り込んであるので、一般の方にしっかり記入してもらい返送してもらうためにどのような努力をするのか。
事務局	<p>調査数の根拠について、就学前児童の保護者が 2,500 人から 5,000 人に増えている。これは、計画をしっかりと立てるため、調査数を増やしたいと考え、その根拠として、平成 25 年 3 月時点での対象者である子どもの数約 4 万 9 千人の約 1 割としている。</p> <p>他の年齢区分については、前回調査の有効回答率が、全体で 47.5%であった。当初回収率 45%を想定していたものが、実際は 47.5%ということで、全体としては、非常によく回答してもらえた。ただし、4 つの年齢区分ごとで見ると、18 歳以上から 40 歳未満の男女の有効回答率は 36%、就学前児童では 57%であった。今回の調査では、より低い方の回答率に水準をあわせ、調査数を約 2 割増、プラス 500 として、精度を確保したいと考えている。</p> <p>調査対象者に回答してもらう工夫とすることで、事務局としても問題の数をなるべく絞りたいと考えた。しかし、国の示している調査項目に加え、子どもの状況など、市として是非聞きたい項目もあり、質問数がかなり増えているという現状である。その中で、どういう工夫ができるかというのは、非常に難しいため、調査数を増やすことにより、回答数を増やしたいと考えている。この会議の中でご意見があれば、調査の質問についても、検討したいと考えている。</p>

会 議 録

会長	調査数の数を前回より増やし、より精度を高めるとというのが、事務局の考えのようである。
委員	調査項目は、国の雛形を基本形にしていると思うが、北九州独自の調査項目というのはどの程度あるのか。
事務局	この後説明する資料 4-1 を見ていただきたい。アンケートにどのような調査項目があるか示した資料である。この資料の凡例で「モ」や「量」と記載しているが、「モ」というのは、国のモデル（調査票）をベースにした項目である。「量」というのは、国のモデルの中でも量の見込みを算定するために必要な項目と指定されたものである。これら以外の項目が前回のニーズ調査（平成 21 年度）を踏まえ北九州市が独自で調査する項目となる。
専門委員	小学校用、中学校用、18 歳以上用の質問項目数は前回と同じか。
事務局	質問項目数はかなり増えている。一番質問項目数が多いのは就学前児童用である。
専門委員	小学校、中学校、18 歳以上も質問数が増えており、そのため回答率が低くなるということか。分かった。
会長	では、早速個別のアンケートの方に入っていきたい。今回のアンケートは 4 つの年齢区分を対象としている。その年齢区分ごとにまず事務局からアンケートの説明を受けて、その後協議に入りたい。
委員	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>(2) 市民アンケート【就学前児童用】について資料 4-1、5-1 に 基づき事務局より説明</p> </div>
事務局	参考資料として、国の子ども・子育て会議で出された調査票のイメージが配布されているが、資料 5-1 の 5 ページの問 11-1 にある「利用したい教育・保育事業（施設等）」の選択肢の順番が国の調査票イメージと異なっている。資料 5-1 の選択肢の順番の根拠は何か。
事務局	前回調査の際の選択肢の順番をそのまま使っている。順番についてご指摘があれば、変更することもできると考えている。

会 議 録

委員	<p>選択肢の順番は、国の会議の第1回から第5回にかけて3回変更している。国の会議で3回変えているということを知っていたのか。北九州は独自でやりますと言われれば、そうですかというところだとは思いますが。</p>
事務局	<p>国の資料につきましては基本的には見ているが、そこまで細かくは確認していなかった。</p>
委員	<p>それでは、事業所の説明もあまり根拠はないのか。例えば、5Pの質問項目の中に、認可保育所の説明として、「就学前の子どもを家庭で保育できない場合に保護者に代わって保育する施設で、市長が認可したもの」とある。間違いではないと思が、国の示した調査票イメージの説明とは異なっている。</p>
事務局	<p>前回調査の調査票を基に、各担当にて国の資料を見ながら内容を確認し、今回の調査票案を作成しているが、指摘があるものは必要な修正をしたい。</p>
会長	<p>国の会議の中でこの配列の順番が変わってきたということであるが、その中には何か意味があるのだろうか。意味があるのであれば、それに準じて検討しないといけないのではないかと思う。</p> <p>また、個人的には、文章の文言がわかりにくいと思われる。市民から見ると細かすぎて、素人はこんな細かいことは気にしていないというか、無頓着ではないか。もう少しわかりやすい表現にしなければ、先ほど言った回収率の問題で、ここでもうアウトになる可能性もある。</p> <p>その意味では、ある程度定義自体はきちりしないといけないが、アンケートを答える側の立場からみて、答えやすいということも判断材料としてもらいたい。</p>
専門委員	<p>資料の差し替えについて、事前に送られてきた資料 4-1 の差し替えが先ほど配布されたが、どこが変わっているか分からない。こちらは、事前に資料に目を通してこちらは理解してきているが、当日差し替えですと配布されても、「どこが変わったのか」と全部見返さないといけない。</p> <p>出来たら、国の資料のような形で、変わった箇所は赤字にするなりすれば、修正点が分かるので、今後の会議やりやすいのかなと思う。せっかく事前に配布された資料を読んでも当日使わないと思えば、しっかり読まなくなってしまうので、今後、そうして欲しい。</p>
事務局	<p>承知した。</p>

会 議 録

専門委員	<p>調査項目は次回に継続して協議して欲しい。今回の調査票案の資料が事前送付されたのが2～3日前であり、調査項目も膨大であるため、幼稚園連盟としての話し合いができていない。</p> <p>基本的に、就学前児童に対しては、国の示す調査票で調査を実施しなければ、今後の方針を決められないのではないか。</p> <p>調査票の文言などについても、国の示す調査票イメージは、国では専門家や大学教授など国を代表するような委員が5回の会議で検討を重ねてできたものである。従って、基本は国の調査票とし、北九州市として、国の調査票から変わっている部分、変わっていない部分を示し、削除した質問項目については、その理由を示すなど分かりやすい資料として示して欲しい。そうすれば協議も早いと考える。</p> <p>質問のしかたによって回答率が少なくなるということもある。</p>
事務局	<p>資料の修正について、事務局の配慮が行き届かず申し訳ない。</p> <p>調査票案自体に関しては、関係課に全部問い合わせをし、修正をかけて案に落とすという形で作成したため、国の調査票との突合が、現時点ではまだできていない。本日示した調査票の案は、議論の敲き台とし、委員から意見をいただきながら修正を加え、最終案を作成したいと考えている。国の調査票を基本にという考え方は、事務局としても大切な視点であると考えており、もう一度国の調査イメージと整合をとり、次回27日の会議で再度案を示したい。</p> <p>本日の資料に不備な点はあるが、意見をいただいてよりよいものにしたいと考えている。</p>
会長	<p>今回は問題点をここできっちり洗い出して、それを事務局が持ち帰って、8月の下旬までに練り直すといったような段取りになっていくかと思う。その意味で、現時点でこのアンケート調査に関し問題点があれば意見をお願いしたい。</p>
委員	<p>確認をしたい。事務局から8月27日の次回会議で、もう一度ニーズ調査の協議をしたいとのことであったが、次回の会議は国の新制度についての説明と聞いている。次回でニーズ調査について協議を行うのか。</p>
事務局	<p>次回については、国の制度のご説明をしたいと考えていた。ニーズ調査についての協議が今回だけでは時間的に間に合わないということであれば、次回も協議をする必要があると考える。</p>
事務局	<p>今回は第1回目の会議を踏まえ、制度についてもう少し勉強したいという意見が多く出たため、第2回会議に諮り追加したものである。先ほど27日にこ</p>

会 議 録

委員	<p>のアンケートの第2回目をしようというのは、今回提案させてもらったものである。</p> <p>次回は所用で出席できないが、ニーズ調査について協議するのであれば困ると考え確認した。それでは、次回がニーズ調査の協議となるかどうかの決定は、この後の協議によることとなる。</p>
事務局	<p>27日の出席が無理であれば日程の再調整も考えるが。</p>
委員	<p>これは個人的なものではなく、みなさんの意見もあろうかと思うので、後ほどお願いしたい。</p> <p>アンケートのことについてだが、自分も国が示している調査票のイメージを、国の子ども・子育て会議の議事録で何度も見た。今日も説明があったようにこのアンケートの趣旨は、需給調整、利用の調整のためのアンケートである。もう一つは、前回の回収率よりもやはり上げたいということだろう。</p> <p>前回のアンケートというのは、10年間の時限立法における次世代育成行動計画の中で実態調査をしたいという大きな項目の中での調査だったように認識している。</p> <p>今回のニーズ調査というのは、あくまでも需給の判断とそれから実態把握ということがあろうかと思う。そうすると前回のアンケートの中で、捉えにくかった点やあるいは、数字は出たものの、でもこの数字はクロス集計が必要だとか、これに追跡調査が必要だとか、かなり意見が出てきた。例えば、朝食アンケートにしても、朝食を食べているか、食べていないかではなく、その中身の調査が必要ではないかとか、(前回の計画策定時の)会議の中で出たが、設問としては前回と同じであり、これは需給調整とかのアンケートの項目に必要なかといえは、設問が多いとやはり回収率が低くなることもある。</p> <p>また、国が示している調査票のイメージには、「回答に当たってお読みください」というものが1ページにわたり記載されている。それから、「いただいた回答は地域の子育て支援の充実に生かされます」という風に図解で説明されている。ところが、今回示された調査票案では、「子ども・子育て支援新制度の趣旨・考え方」がとても簡潔にまとめられすぎていて、これでアンケートを書く人に本当に理解してもらえるのか疑問である。</p> <p>先ほど会長から、幼稚園と保育所とかこういう風に詳しく説明されても、調査対象者にそれまでの認識はどうだろうかということがあった。また、この会議に出ているメンバーでも、子ども・子育て新制度のことがよく把握できないからこそ、今度27日に制度の説明ある。であれば、アンケートを書くときに、何のためのアンケートかというものを分かりやすくするために、国が示したこの調査票のイメージで、この調査はこのように生かされるというものが必要で</p>

会 議 録

<p>会長</p>	<p>ある。国のイメージの1P、2Pというものは、国の会議で練られたものであり、やはりこういったものを示される、あるいは用語の定義も最初にこういう風にしてあれば、回答しやすいと思う。回答をして欲しいのだから、分かりやすく書きやすいほうがよい。そして、何のための調査かもっと分かりやすいほうがよいと思う。</p> <p>今回の調査票案は敲き台だとのことなので、国の調査票のイメージを北九州版になおして、あるいは、子育て支援はどんなものがあると分かりやすく記載すれば回答しやすいと思う。</p> <p>調査項目については、前回に倣ったとの説明であったが、前回の質問項目が本当に必要だったのか、今回の調査でどの質問項目が必要なのかという精査をしたうえで、質問事項をもう少し整理したほうが回収率も上がり、本当の意味での数字が出てくるのではないかと思う。</p> <p>委員の発言は、私が理解した範囲では、新制度を当会議のメンバーが良く理解していなければ、アンケート調査自体の妥当性を検討できないのではないかということか。もしそうであれば、先ほど事務局から提案では、次回の会議でアンケートの見直しをするということだが、一旦当初の予定通り、新制度に関して、事務局の方からレクチャーしてもらい、制度を十分踏まえた上で、次のセッションで、アンケート調査を練り直すことで、時間はかかるけれども、より精度の高いものが出来るのではないか。</p> <p>今後のスケジュールも見合わせなければいけないと思うが、新制度をここでしっかりと学んだ上でアンケート調査を練り直すのか、アンケート調査はアンケート調査で進め、その後でレクチャーするのか、事務局で、意見を踏まえて、次回の会議の内容を決めて欲しい。</p>
<p>事務局</p>	<p>会長から提案があったように、今回ニーズ調査についてある程度ご説明をしたうえで、次回は予定通り新制度の説明をすることとしたい。本日の会議の意見を踏まえ、また国の調査票イメージとの突合等含め、再度案を練り、次々回の会議で提案をさせていただきたい。</p>
<p>会長</p>	<p>事務局から説明のあったスケジュールで進めたいと思うがよいか。</p>
<p>委員</p>	<p>他の政令市の同じような立場の人間と話したときに、北九州は早いなと言うのが率直な意見だった。9月にニーズ調査を行いうとスケジュールは最初に聞いているが、このペースで進めるということに何か考えがあるのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>調査期間に1ヶ月、調査結果を単純集計するだけでさらに1ヶ月、さらにクロス集計をする必要があることを考えると、当初スケジュールで示したよう</p>

会 議 録

事務局	<p>に、調査結果を当会議に報告するのは新年になる。次期計画は来年夏までに策定する必要があり、調査の実施が遅れば、それ以降の検討作業に影響することが懸念される。</p> <p>市民のニーズを把握した上で、新しい施策等どういうものに取り組むべきか検討する時間をできるだけとりたいということから、できるだけ早くアンケート調査をしたいと考えている。</p> <p>他の政令市に聞いているところでは、早いところでは10月位に実施しようということで、他も大体年内には実施したいという意向のようである。北九州市が1ヶ月程度早かったのかもしれないが、大体政令市は早めに動いているといった状況である。その理由の一つは、どの都市も待機児童問題等抱えているため、ニーズの把握等を早くやりたいという考え方もあろうかと思う。</p>
会長	<p>議論を元に戻したい。今回は、現時点でのアンケートの問題点の洗い出しということで就学前児童アンケートについて意見をお願いしたい。</p>
委員	<p>宛名のお子さんが第何子かということがこのアンケートの中では出てこない。例えば第1子と第2子以降では、ニーズが異なったりする場合が多いので、基本的な「1 宛名のお子さんご家族の状況」の中で、この子自身が第何子かという質問があったほうがよいと思う。</p> <p>19P「10 子育てに関する悩みや不安についておうかがいします」のところで、問25「日常悩んでいることや、気になること」の中に、出来れば、『子どもとテレビやゲームのこと』、『メディアに関すること』、『体力の低下のこと』、公園づくりなども北九州市では進めていますけれども、『公園が遊びやすいか』など、具体的な表現は考えていないのですが、そういったことを入れてみてはどうか。</p> <p>そして、17Pの「8 子育て支援サービスの認知度・利用度」の設問について、選択肢にマザーズハローワークが入っていない。マザーズハローワークが子育て支援サービスかといわれると、私自身も疑問はあるが、子育て中の方に限定したサービスであるので、入れてはどうか。</p>
会長	<p>今の意見を事務局で再検討して欲しい。</p>
委員	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>(3) 市民アンケート【小学生用】について資料4-2、5-2に基づき事務局より説明</p> </div> <p>資料4-3の中学・高校生用には、「学校生活について」でいじめや暴力行</p>

会 議 録

事務局	<p>為に関する質問があるが、小学生用では質問されていない。小学校でもいじめや暴力行為はあると思うがいかがか。入れることを検討しているか。</p> <p>小学生用では検討してなかった。関係局と協議し検討したい。</p>
委員	<p>4ページで子どもに携帯を持たせているかどうかの質問がある。問12-3では「フィルタリングサービスを付けていますか」という質問をしているが、こういったフィルタリングサービスを付けるか付けないかの前に、携帯の使用について親子間で話し合いを持っているか、ルールがあるかどうか、とかいうことの方がとても大切であり、そこがなくなあなあになって巻き込まれるということがとても多いと思うので、是非入れて欲しい。</p>
会長	<p>事務局で持ち帰って検討してください。</p>
委員	<p>13ページ、病気の際の対応についてのところで、先ほどの未就学のところでもあったが、アンケートの質問の文面で、「この一年間に行った対処法として」ということであった。私自身子どもを持って、休んだり、病児保育にかかったりいろいろしているが、一年間と言われるとカウントできないのではないかと思う。アンケートを書く側としては、その点をもう少し質問事項を変えたほうがいいのではないかと思う。このアンケートによって何を、どういう情報を得るのかというところが必要と思うので、そのあたりのアンケートの内容をもう一度検討して欲しい。</p>
事務局	<p>担当部署と検討させていただく。ただし、国のモデルでも一年間行った対処方法という形で示されている。ある程度期間を限定しなければ、いつまで遡るのかという部分もあるので、その辺がひとつの基準ではないかと考えている。</p>
会長	<p>再検討をお願いする。</p> <p>表現と内容に関しては実態とずれるとまではいかないが、答える側からみると、少し答えにくいとか、答えづらいとか、答え方が分からないとか、そういったところがあると思う。気になるところがあれば、事務局に出して欲しい。事務局はそれを踏まえて検討し、修正して欲しい。</p>
委員	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>(4) 市民アンケート【中学・高校生用】について資料4-3、5-3に基づき事務局より説明</p> </div> <p>9ページの間23、「今後行政が子育てに関する情報を発信する手段として」</p>

会 議 録

	<p>のところは、就学前から小学生、中学・高校生と同じ選択肢になっている。小学生、中学・高校生に関しては、例えば「学校」という選択肢がなくていいのか。相談とか発信とか、小学生以上は増やした方が良いのではないかと。</p> <p>それから、働き方のところであるが、ざっくりとした考えではあるが、今パートタイムでも、例えば平日と土日分けてパートタイムをしていたり、昼間と夜と分けてパートタイムしてたり、例えば週何回はこっち、週何回はこっちというようにダブルで働いたりトリプルで働いたりしているという方も身近にいる。そういった方たちが、自分が働いている就労状況について書こうとしたときにちょっと書きにくいなと思ったので、ここのところをどのように捉えていったらよいかと疑問があった。この調査票は、多分ひとつの就職先に働いているというイメージで作られているのだが、そういったダブルやトリプルで働いている方はどんなふうを書くのかなと、もう書くまいかなとかあきらめて撤退してしまうのではないかと考えたので、そのところを。</p>
会長	<p>複数で勤めている場合ですね、兼業とかいくつかけ持ちという方も当然いらっしゃるだろう。</p>
事務局	<p>就労については、国の方のモデルもあるので、今の意見を踏まえながら、どういう形にするのかももう一回検討したい。</p>
専門委員	<p>今までの3つの年齢区分（就学前、小学生、中学・高校生）のアンケート項目の就労状況の中で、「どのような職種ですか」という質問がない。このあと説明のある18歳以上40歳未満の間11-2では質問しているが、これには何か意図があるのか。特別な意図がなければ、私は入れた方がよいと思う。</p>
事務局	<p>当初案では入れていたが、質問項目があまり多くなるため削除対象とした。パートかフルタイムがというのは量の見込みを算定するために大切な項目であるが、どんな職種かという部分については、それほど影響しないということで、就学前から中学・高校生までについては削除対象とした。18歳以上40歳未満分については質問数も少ないため残している。</p>
専門委員	<p>ワーク・ライフ・バランスを考えていく上で業種というのは、非常に大事なことではないかと思う。営業職で夜まで働かないといけないということで、とうてい子育てできない状況にあるとか、そういう職種というものもあると思う。</p> <p>いろんな職種があって、そういったところをしっかりと掘んでいかないと、今後のワーク・ライフ・バランスを考えていく上で、答えが出てこないのではないかと、支援策も出てこないのではないかと。</p>

会 議 録

(5) 市民アンケート【18歳以上 40歳未満用】について資料4-4、5-4に基づき事務局より説明

専門委員

引きこもりの実態を把握したいという説明であったが、引きこもりの方はアンケートに回答をきっちりと返してくれるのか。実際に前回の調査ではどうだったのか。

事務局

前回調査ではこの質問は入っていなかった。元気発進！子どもプランに関する点検評価を行うために、毎年4つの年齢区分に各200件の市民アンケートを実施している。そのうち年齢区分が15歳から40歳未満の方へのアンケート調査の中で、引きこもりに関するアンケートを入れている。これは平成23年度からアンケートをしており、平成23年度で回答があった53人のうち1人で1.8%、平成24年度は72人中6人で8.33%、平成25年度は55人のうち1人で1.82%が社会生活を円滑に営む上で困難を抱えている若者の割合という数字が出ている。ただし、調査の母数が少ないため、本来的に実態が出ているのかという点でどうかという部分はある。

専門委員

引きこもりの実態としては、調査する必要があると思うが、ここで質問する意味が少し分からなかったため質問した。また、調査結果について疑問におもところもあるが、主旨は分かった。

委員

7ページの「出産や子育てについてお伺いします」のところ、資料4-4でも思ったのであるが、「子どもを欲しいと思わない」と記載されている。それを受けて、問21も一番最後のところに「欲しいと思わない」というかなり否定的な、子どもを持つことに否定的な感覚を受ける。「持たない」など少しやわらかい文言にできないか。

会長

文章表現で否定的なニュアンスが少し感じられるので、そのような感じがしないような表現に書き換えて欲しいというご意見だと思う。事務局は検討をお願いします。

専門委員

先ほどの引きこもりの質問について、私も質問内容を見ていてどういう主旨なのだろうかと思いながらみたところではある。例えば、問6以降で、「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」というような場合に、それを選んだ方は何か問題があるということが前提でそのような状況になっているというような質問の構成になっているようにも読める。必ずしもなにか問題があってそのような状態になったのではない方も当然いるかと思う。

会 議 録

	<p>質問の構成が、何かトラブルがあってそのようになっているというような雰囲気、質問する側の意図が読み取れるので、なんとなく読んでいて気になるところである。問8についても、どういう主旨なんだろうかと思ったのであるが、親と一緒に生活しているということ自体が否定的というかマイナスなイメージで捉えそうな感じの設問ではあるかなと思った。親と肯定的に同居している場合もあるかと思う。問6からその辺りで、主旨は分かるが、その主旨が設問の中になんとかマイナスなイメージが強く出ている気がした。そうでないような生活をしている方にとっては、答えづらい質問かと思った。</p>
会長	その辺を含めて検討をお願いします。
委員	<p>この子ども・子育て支援の制度に関するためのアンケート調査で、表紙のところに子ども・子育て支援新制度の趣旨・考え方というのがある。そこで18歳から40歳未満の方にお尋ねしますというとき、対象者はどう答えようかとまず悩むのではないかと思う。だから「この意見が反映されます」というようなことであるとか、あるいは「北九州市民が子育てに関してどう思っているかを聞きたい」というように、もう一歩何のための調査であるということがなければ、「子ども・子育て支援新制度」と書いてある時点で、「私まだ子どもいないし」と思われるかも知れない。逆に「子育て終わりました」と思われるかも知れない。その思い方で違うと思うので、この設問の前に、内容云々でなく、どういう意図でこのアンケートをしているのかというものを明らかにしないと、特に子どものあて名で保護者が答えるアンケートではなく本人が答えるアンケートなので、そこがどうなのかと思った。</p> <p>先ほどの引きこもりの調査でも、ではこれがどのようになるという設問の最初の意図するものがいると思った。</p> <p>次に5ページに「女性の方にお伺いします。あなたに子どもができた場合、現在の仕事を続けたいですか」という質問の対象は女性なのか。その次の質問「男性の方にお伺いします。あなたに子どもができた場合、配偶者に仕事を続けて欲しいですか」の対象は男性なのか。この質問は女性・男性というより、自分が仕事を続けたいか、それとも配偶者に続けて欲しいかという質問であり、女性・男性と分けて聞く必要があるのか。</p>
事務局	<p>1点考えられるのは、今現実的にある問題として、女性が出産と同時に辞めていく現状があるということがある。委員の指摘は当然であるが、そのような部分で、このような質問となっていると思われる。ただし、担当部署と協議のうえ必要な修正をしたい。</p>

会 議 録

(6) 市民アンケート全体を通しての質疑応答・意見交換

委員	就学前児童のアンケートについて、居住地について「区」を尋ねる質問となっている。需給調整は区単位で行う予定なのか。
事務局	区域設定の質問であるが、これから実際に計画を作るなかで、区域を決めていくという流れになる。
委員	それではニーズ調査にならないのではないかと。八幡西区でも黒崎もあるし折尾もある。
会長	もう少し、区を細かく分ける必要があるということか。
事務局	委員の指摘はよく分かる。事務局としても区域設定をどうするのかというものは、非常に悩ましいところである。あまり狭くすると、新規新設などが難しくなる可能性もあり、区域をどのように設定するのがいいのかという点は非常に悩ましい。他の政令市に聞いてもその辺大変悩んでいるのが実情である。今回アンケート案で示しているものは、「区」で出しているが、どの地区に需要が多いかを見るためには、もう少し細分化した方がいいのではないかと。この意見の主旨も分かるので、検討させて欲しい。
専門委員	先ほどから質問項目が多くなり過ぎることがあるようなので、就学前児童用について全員に同じ質問をするのではなく、例えば 3 分の 2 はニーズ調査の件について質問するアンケート、3 分の 1 は北九州市独自の細かいところまで掘り下げたアンケートというやり方はとれないのか。
事務局	専門委員の提案について、事務局でも検討したが、国の調査票モデルで示されている質問項目と本市が前回実施した質問項目でかなり重複する項目があり、一緒に調査する方がよいのではということ、現時点では一本で調査することを考えている。しかし、市民の方が答えやすいようにするためにはどうすればよいか、事務局としてももう一度よく検討したい。
委員	このアンケートはインターネットで回答できないのか。
事務局	郵送による調査を考えている。住民基本台帳から無作為抽出でアンケートを

会 議 録

委員	<p>行うため、個人を特定する情報は入れないような形をとっており、インターネットによる調査ということは今のところ考えていない。</p> <p>例えば、年金の番号など特定の10桁の番号を郵送して、そのキーを入れることでその人だけが回答できるとすれば、特に個人情報には問題にならないと思うが難しいのか。また予算上難しいのか。</p>
事務局	<p>電算関係部署と協議して検討する必要がある。対象が子どもの保護者であったり18歳以上40歳未満の本人であったりということになるので、その調整ができるのか、検討したい。</p>
会長	<p>私から事務局に考えてもらいたい点を2点ほど上げる。</p> <p>今回議論はあったが、アンケート項目がこのままでは多すぎるのではないかというものがまず大半の意見ではないかと思う。結局アンケート項目が多いと回収率が当然下がってくる。今回回収率のことも考えて、調査対象者数を増やすと説明があったが、対象者数を増やしたとしても、回収率が低ければ、本当に市民の声が聞けるかということそうではない。アンケートを答える人というのは、やはりアンケートを答えるだけの時間的余裕のある人だと思う。この調査で大事なものは、時間的に余裕のないお母さん、お父さん、保護者のニーズを洗い出すことである。それなのに、回収率が下がることで、本当の声が吸い上げられない可能性がある。アンケートになかなか時間が割けない人に答えてもらうようなアンケート調査にしなければいけないのではないか。そういったところを考えると、確かに国からのモデルであるとか、北九州市がやってきた項目を踏襲する必要はあるかもしれないが、どういう質問項目が必要なのかという優先順位をきっちり決めた上で、非常に雑な、乱暴な言い方かもしれないが、ある意味過去のことはリセットして、今回のニーズ調査でどのような数値が必要とされるのか、それに関連して市民の意識がどうあるのかということに、特化するくらいの腹積もりでアンケート項目を再度検討してもらう必要があるのではないかと思う。変な言い方であるが、勇気ある決断をお願いする。</p> <p>それから、過去の調査項目と今回の項目とどれが同じように使われているのか、どれが今回新たに含まれているのか。それから4つの年齢区分でどの質問項目が重複しているのかあるいは単独なのか、そして優先順位なども一覧表で分かるようにして欲しい。次回会議で新制度についてのレクチャーを受け、やはりこの項目は必要なんだなというのを踏まえた上で、次の次の会議でアンケートの協議をするときに活かせるような形で資料を用意して欲しい。</p> <p>資料も膨大なので、委員のメンバーもしっかりと理解するのは大変と思うので、理解しやすい補助資料を事前に事務局で準備していただきたい。以上2点会長からお願いする。</p>

会 議 録

事務局	<p>事務局としても若干急ぎすぎた面もあり、準備不足でアンケートを出したようになったと反省している。本日大変貴重な意見をいただいたので、事務局としてもう一度アンケートをどうするかよく検討したい。</p>
会長	<p>その他になにか質問や意見はあるか。</p>
専門委員	<p>若松地区と小倉北地区に開園時期が27年4月1日からという民間保育所の新設の公募が出ている。この会議は、27年度からの計画を今立てているのであり、27年度開所であれば、この会議の様様をみてから新設すべきではないのか。</p>
事務局	<p>8月1日付けで小倉北区の大手町の地区、若松のひびきの地区で公募している。いずれも大量の住宅開発の予定が立っており、当初本市が考えてきたよりも早く就学前児童が増えそうだという見込みがあるため、今回募集を始めた。以前から保育所の新設をどうするか検討していた地区であり、補助金等を出す関係で、市の財政状況を見ながらずっと新設改築等を進めてきたものであり、当然時期的に必要なようになってくるだろうという予測の上で、今回この時期になったものである。</p> <p>【閉会】16:00</p>